地球温暖化の現状と原因

●地球温暖化の原因

地球温暖化のおもな原因は、二酸化炭素（CO2）などの温室効果ガスの急増です。産業の発展に伴い人類は石炭や石油などを大量に消費するようになり、大気中の二酸化炭素の量は200年前と比べ35％程増加しました。これからも人類が同じような活動を続けるとすれば、21世紀末には二酸化炭素濃度は現在の2倍以上になり、この結果、地球の平均気温は今より上昇すると予測されています。予測によると2100年の平均気温は、温室効果ガスの排出量が最も少ない場合には平均1.8度、最も多い場合には4.0度とされています。

●地球温暖化による影響

地球温暖化により、降雨量の変化や異常気象が多発するようになります。植物への影響も大きく、森林の消滅や生物種の絶滅などが予測されています。50年後にはアマゾンの森林は砂漠化するという予測もあります。また世界各地で異常気象が多発するなど、すでに地球温暖化の影響は始まっています。

●地球温暖化による海面の上昇

地球規模で見ると、海面が上昇して数多くの島々が海に沈みます。また、温暖化は異常気象を招き、地球上の各地で水の循環が影響を受けます。この結果、洪水が多発する地域がある一方、渇水や干ばつに見舞われる地域も出てきます。こうした気候変動は世界的な農産物の収穫にも大きな影響を与え、国際相場が大きく変動します。

●世界的な水不足・食料危機

地球温暖化の最大の問題は、水や食料が世界的に不足してくることです。2025年には世界人口の大半にあたる約50億人が水不足になると予測されています。また、今後100年以内に、中国で米の収穫は8割減、ブラジルやインドでは小麦などの収穫が大幅に減少するなど、深刻な食糧不足が警告されています。（国連IPCC報告）。

＊IPCC（Intergovernmental Panel on Climate Change：気候変動に関する政府間パネル）は、1989年、WMO（世界気象機関）とUNEP（国連環境計画）によって組織されたものです。

温暖化が進むと、日本では、これまで食べてきた美味しいお米がとれなくなり、病害虫の懸念も増大します。漁獲量にも影響がでます。暖水性のサバやサンマは増える一方、アワビやサザエ、ベニザケは減少するといわれます。また、日本南部はデング熱が流行する危険性が増し、北海道や東北ではゴキブリなどの害虫が見られるようになると考えられています。都市部ではヒートアイランド現象に拍車がかかり、海岸地域では砂浜が減少し、また、高潮や津波による危険地帯が著しく増大します。

温暖化防止に向けて

●世界の取り組み

地球温暖化の原因は二酸化炭素など温室効果ガスの急増です。家庭で使っている電気やガス、マイカーで消費するガソリンなどは、私たちが便利で快適な生活をすることで大量に発生しているのです。

現在、欧州連合（EU：外交・安全保障政策の共通化と通貨統合の実現を目的とする統合体）は削減目標を40％と大幅に上げ、ドイツやイギリスなどは既に約10％～20％の削減をしています。しかし、日本の削減目標はわずか6％。しかも逆に8％増加しています。こうした温室効果ガス排出量の増大で､このままでは温暖化防止は手遅れになると国連UNEPは警告しています。

●私たちにできること

温暖化を防止するためには、私たちのライフスタイルを変革することが不可欠となります。できるだけ不要なものを買わず、大事にものを使い、再利用やリサイクルを心がけることはとても重要なことです。また、節電をしたり、外出時の車利用を自転車や公共機関に切り替えたりする努力も必要です。

●家庭でできる取組み

日本のCO2排出量の約半分は家庭と密接に関係しています。私たちが日常生活の中で省エネ、節電、節ガスなどを行うことで温暖化をストップすることができます。以下にあげた10の取り組みのうち、できるものから始めてみましょう。

**①暖房の温度を1℃低く、冷房の温度を1℃高くする**

カーテンを利用したり、クールビズやウォームビズを取り入れたりすることで、冷暖房機に頼らないで過ごしましょう。

**②シャワーを1日1分家族全員が減らす**

**身体を洗っている間、お湯を流しっぱなしにしないようにしましょう。**

**③風呂の残り湯を洗濯に使いまわす**

**洗濯や庭の水やりのほか、トイレの水に使っている人もいます。残り湯利用のために市販されているポンプを使うと便利です。**

**④ジャーの保温を止める**

**ポットやジャーの保温は利用時間が長いため、多くの電気を消費します。ごはんは電子レンジで温め直すほうが電力の消費は少なくなります。**

**⑤家族が同じ部屋で団らんし、暖房と照明の利用を2割減らす**

**家族が別々の部屋で過ごすと、暖房も照明も余計に消費します。**

**⑥買い物袋を持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ**

**トレーやラップは家に帰れば、すぐゴミになってしまいます。買い物袋を持ち歩けばレジ袋を減らせます。**

**⑦テレビ番組を選び、1日1時間テレビ利用を減らす**

**見たい番組だけを選んで見る習慣をつけましょう。**

**⑧週2日往復8kmの車の運転をやめる**

通勤や買い物の際にバスや鉄道、自転車を利用しましょう。

**⑨1日5分のアイドリングストップを行う**

駐車や長時間停車する時は、車のエンジンを切りましょう。大気汚染物質の排出削減にも寄与します。

**⑩待機電力を50%削減する**

主電源を切りましょう。長時間使わない時は、コンセントを抜きましょう。

文責：高橋尚道

＜参考＞

・気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第4次評価報告書　第1作業部会（2007年2月2日発表）

・全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）

・NPO ネットワーク「地球村」